

岩波文庫

32-033-3

中國名詩選

(下)

松枝茂夫編

岩波書店

中国名詩選(下) [全3冊]

1986年10月16日 第1刷発行 ©

定価 700円

編 者 松 枝 茂 夫

発行者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋2-5-5

発行所 株式会社 岩 波 書 店

電話 03-265-4111

振替 東京 6-26240

印刷・三陽社 製本・桂川製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan

岩 波 文 庫

32-033-3

中 国 名 詩 選

(下)

松 枝 茂 夫 編

岩 波 書 店

凡例

一、中国の詩歌は『詩経』以来今日まで、およそ三千年におよぶ豪華絢爛たる歴史をもつています。それは質においても量においても世界に冠たるものといつてよいでしょう。

一、この書はそのなかから最もすぐれた愛誦するに足る作品を選んで、これに簡単な訳注を添えたものです。

一、作品は時代順・作家別に排列し、それぞれの作家の略伝を付しました。時代順・作家別とはいっても、たとえば『詩経』とか漢代歌謡などのように、作者の名も制作年代もわからぬいものは、信頼すべきテキストの順に拠りました。

一、詩の選択に当たつては、あまり長篇のものや、初学者に難解なものは原則として割愛しました。それでもどうしても避けて通れないものは、やむをえず部分的に抄出しました。

一、訳注はなるべく初学者に理解しやすいように平易なことばを使用し、専門的な用語は出来るだけ避けようと心がけました。また詩の解釈については日本・中国の信頼すべき注釈書を参考にして多大の裨益を受けました。一々その旨をしるしてみだりにその美をかすめた無礼を謝すべきですが、この本の性質上、敢えて省かせていただきました。

一、本書は三分冊とし、上巻は『詩経』から漢魏の時代まで、中巻は陶淵明から李白・杜甫の

時代まで、下巻は白居易から近代までとします。全部でおよそ五百首ほどの詩篇が収められるはずです。天上の星の数ほどもあるなかから、僅かこれだけを選びだすということは、到底人間わざで出来ることではありません。非力をかえりみず、敢えてここに蛮勇の大ナタをふるつた次第であります。

一、訳注の仕事に協力したのは、安藤陽子、市川宏、大石智良、奥平卓、久米旺生、竹内良雄、立間祥介、丸山松幸、山谷弘之、和田武司、その他の諸君です。しかし最終的には松枝に一切の責任があります。

目

次

凡例

解說

唐代の詩(三)――中唐

四五

逢雪宿芙蓉山主人(雪に逢つて)

田ん
顧況 こきょう
吾

芙蓉山主人のもとに宿る)……劉長卿

秋日しううじつ
耿こう津い
毛モ

聽彈琴(琴を弾^{きん}するを聴^{だん}く) ······ 劉長卿

和張僕射塞下曲（張僕射の「塞い」）

送靈澈上人（靈澈上人を送る）……劉長卿 四八

下の曲に和す)・
盧綸
元

重送裴郎中貶吉州かき
はいりう重ねて裴郎

楓橋夜泊
あきよしやはく

張繼
ちようけい

中の吉州に貶せらるるを送る）……劉長卿 四九

寒食
韓翃 六〇

貧婦詞(貧婦の詞)

湘南卽事
戴叔倫

歸雁

じよしゅうせいかん
滁州西澗
おうぶつ
韋應物
三

秋夜寄丘二十二員外(秋夜、丘)

二十二員外に寄す)

て藍闌に至り、姪孫の湘に示す)

：韓愈

八四

聞雁(雁を聞く)

韋應物

六

江村即事

司空曙

六

夜上受降城聞笛(夜、受降城に)

李益

七

上つて笛を聞く)

李益

六

從軍北征(軍に従つて北征す)

李益

六

聽曉角(曉角を聞く)

李益

九

游子吟

孟郊

七

馬厭穀(馬は穀に厭けるに)

韓愈

七

醉留東野(酔つて東野を留む)

韓愈

七

山石

韓愈

七

落齒

韓愈

九

左遷至藍關示姪孫湘(左遷され)

柳州一月榕樹葉落盡偶題(柳州)

柳宗元

九

二月、榕樹の葉落ち尽くす、 偶題す)	柳宗元	九	憶う	白居易	二六
酬曹侍御過象縣見寄(曹侍御の 象縣を過つて寄せられしに酬ゆ)	柳宗元	九	憶う	白居易	二六
憫農(農を憫れむ)	李紳	一〇	琵琶行	白居易	二三
賦得古原草送別(「古原の草」を 賦し得て、別れを送る)	白居易	一〇	問劉十九(劉十九に問う)	白居易	一四七
長恨歌	白居易	一〇三	暮江吟	白居易	一四八
新豐折臂翁(新豊の臂を折りし 翁)	白居易	二六	遣悲懷(悲懷を遣る)	元稹	一四九
賣炭翁(炭を売る翁)	白居易	三	聞樂天授江州司馬(樂天が江州 の司馬を授けられしと聞いて)	元稹	一五
八月十五日夜禁中獨直對月憶 元九(八月十五日の夜、禁中に)	白居易	二六	得樂天書(樂天の書を得て)	元稹	一五三
度桑乾(桑乾を度る)	賈島	一五三	行宮	元稹	一五三
尋隱者不遇(隱者を尋ねて遇わ ず)	賈島	一五三	尋隱者不遇(隱者を尋ねて遇わ ず)	賈島	一五三

金縷衣(金縷の衣)	杜秋娘(?)	八三	新沙	陸龜蒙	二〇〇
勸酒(酒を勧む)	于武陵	一八四	橡媼嘆(橡媼の嘆き)	皮日休	二〇一
商山早行(商山を早く行く)	溫庭筠	一五五	偶興	羅隱	二〇五
瑤瑟怨	溫庭筠	一八六	感弄猴人賜朱紱(弄猴人に朱紱を) 賜わりたるに感じて)	羅隱	二〇七
樂遊原	李商隱	一八七	臺城	李商隱	一八八
夜雨寄北(夜雨、北に寄す)	李商隱	一八九	淮上與友人別(淮上にて友人と別)	韋莊	二〇八
錦瑟	李商隱	一九一	江陵愁望有寄(江陵の愁望、寄 する有り)	鄭谷	二〇九
常娥	李商隱	一九三	再經胡城縣(再び胡城縣を経て)	魚玄機	二一〇
無題(相見時難別亦難)	李商隱	一九四	杜荀鶴	二一	
無題(颯颯東風細雨來)	李商隱	一九五	貧女	秦韜玉	二二
江樓舊感	趙嘏	一九七	生	韓偓	二三
日東病僧(日東の病僧)	項斯	一九八	詠浴(浴を詠ず)	曹松	一九
己亥歲(己亥の歲)					

唐・五代の詞

二二七

菩薩蠻(平林漠漠烟如織) ······	李白(?)	二二八	菩薩蠻(小山重疊金明滅) ······	溫庭筠	二三四
憶秦娥(簫声咽) ······	李白(?)	二二九	浪淘沙(簾外雨潺潺) ······	李煜	二三五
漁家子(西塞山前白鷺飛) ······	張志和	二三一	相見歡(無言獨上西樓) ······	李煜	二三七
憶江南(江南好) ······	白居易	二三二	虞美人(春花秋月何時了) ······	李煜	二三八
夢江南(梳洗罷) ······	溫庭筠	二三三	菩薩蠻(紅樓別夜堪惆悵) ······	韋莊	二三九

宋代の詩(一)——北宋

二三三

塞上 ······	柳開	二三四	山園小梅(山園の小梅) ······	林逋	二三七
村行 ······	王禹偁	二三五	淮中晚泊犢頭(淮中、晩に犢頭)		
書河上亭壁(河上の亭壁に題す) ······	寇準	二三六	に泊(す)		
蘇舜欽		二三八			

初晴游滄浪亭(初めて晴れ滄浪)	夜直	王安石	三二
亭に游ぶ)	蘇舜欽	三九	
夏意	蘇舜欽	三九	
陶者	梅堯臣	三四〇	
汝墳貧女(汝墳の貧女)	梅堯臣	三四一	
魯山山行(魯山の山行)	梅堯臣	三四二	
夜聽鄰家唱(夜、隣家の唱うを	梅堯臣	三四三	
聽く)	梅堯臣	三四六	
小村	梅堯臣	三四八	
祭猫(猫を祭る)	梅堯臣	三四九	
晚泊岳陽(晩に岳陽に泊す)	歐陽修	三五三	
戯答元珍(戯れに元珍に答う)	歐陽修	三五三	
日本刀歌(日本刀の歌)	歐陽修	三五三	
河北民(河北の民)	歐陽修	三五三	
王安石	蘇舜欽	三九	
示長安君(長安君に示す)	王安石	三六三	
北陂杏花(北陂の杏花)	王安石	三六四	
泊船瓜洲(船を瓜洲に泊す)	王安石	三六四	
初夏卽事	王安石	三六五	
鍾山卽事	王安石	三六六	
江上	王安石	三六六	
暑旱苦熱(暑干、熱きに苦しむ)	王令	三六七	
和子由澠池懷舊(子由の「澠池	蘇軾	三六九	
六月二十七日望湖樓醉書(六月二	蘇軾	三七一	
十七日、望湖樓に醉うて書す)	蘇軾	三七一	
吳中田婦歎(吳中の田婦の嘆き)	蘇軾	三七一	
望海樓晚景五絶(望海樓の晚景、五	蘇軾	三七一	

飲湖上初晴後雨(湖上に飲む、 初め晴れ後雨ふる) ······	蘇軾 二七	絕(ぜ) 二首 ······
中秋月(中秋の月) ······	蘇軾 二七六	食荔枝(荔枝を食う) ······
正月二十日與潘郭二生出郊尋 春忽記去年是日同至女王城 作詩乃和前韻	蘇軾 二七七	蘇軾 二八三
(正月二十日、潘・郭の二生と 郊を出でて春を尋ね、忽ち去年 の是の日、同時に女王城に至つて 詩を作りしことを記い、乃ち前 韻に和す) ······	蘇軾 二七八	春夜 ······
題西林壁(西林の壁に題す) ······	蘇軾 二八〇	澄邁驛通潮閣(澄邁駅の通潮閣) ······
惠崇春江晚景(惠崇の「春江晚 景」) ······	蘇軾 二八一	蘇軾 二八四
贈劉景文(劉景文に贈る) ······	蘇軾 二八二	夜發分寧寄杜潤叟(夜、分寧を 発し、杜潤叟に寄す) ······
別三子(三子に別る) ······	陳師道 二九五	黃庭堅 二八七
秋日 ······	秦觀 二九四	寄黃幾復(黃幾復に寄す) ······
雨中登岳陽樓望君山(雨中、岳 陽樓に登つて君山を望む) ······	黃庭堅 二九二	黃庭堅 二八九
春日 ······	秦觀 二九三	題竹石牧牛(竹石牧牛に題す) ······
別三子(三子に別る) ······	陳師道 二九五	黃庭堅 二八七

示三子（三子に示す）……………陳師道 三九八
絶句……………陳師道 三九九
春懷示鄰里（春の懷い、隣里に）……………張舜民 三〇一

宋代の詩(二)——南宋

三〇三

示す）……………陳師道 三〇〇
村居……………張舜民 三〇一

襄邑道中	陳與義 三〇四	書憤（憤りを書す）……………陸游 三二三
中牟道中 二首	陳與義 三〇五	臨安春雨初霽（臨安、春雨初めて）…………… （霽る）……………陸游 三二五
春寒	陳與義 三〇六	秋夜將曉出籬門迎涼有感
傷春（春を傷む）	陳與義 三〇七	（秋夜將に曉けんとし、籬門を出 て涼を迎う、感有り） 二首……………陸游 三二七
牡丹	陳與義 三〇九	書適（適しみを書す）……………陸游 三二九
遊山西村（山西の村に遊ぶ）	陸游 三一〇	十一月四日風雨大作（十一月四 に遇う）……………陸游 三二二
劍門道中遇微雨（劍門道中、微雨）		

日風雨大いに作る	陸游	三〇	楊万里	三三六
小舟遊近村捨舟歩歸（小舟に て近村に遊び、舟を捨てて歩ん で帰る）	陸游	三一	楊万里	三三九
沈園 二首	陸游	三二	林升	三四一
示兒（児に示す）	陸游	三四	翁卷	三四二
催租行	范成大	三五	趙師秀	三四三
後催租行（後の催租行）	范成大	三六	戴復古	三四四
州橋	范成大	三八	劉克莊	三四五
四時田園雜興 五首	范成大	三九	劉克莊	三四七
過百家渡（百家渡を過る） 二首	楊万里	三三	劉克莊	三四八
閒居初夏午睡起（閑居の初夏、 午睡より起く）	楊万里	三五	葉紹翁	三四〇
金陵驛	文天祥	三五	文天祥	三五一
初入淮河（初めて淮河に入				